

令和 6 年度 ナラ枯れ被害の状況について

県内現況

- 本県では、令和元年度に初めてナラ枯れ被害が発見され、令和 3 年度 15 市町村被害量 9,373m³ にまで増大しました。令和 4 年度以降、被害市町村は拡大しているものの、被害量は減少。

年度	市町村数	面積 (ha)	被害本数	被害材積 (m ³)	前年度比	発生市町村
R1	3	0.19	39	39	—	身延町、南部町、山中湖村
R2	12	91	4,364	2,831	↑ 7259%	甲府市、富士吉田市、都留市、笛吹市、早川町、身延町、南部町、道志村、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町
R3	15	28	15,068	9,373	↑ 331%	甲府市、富士吉田市、都留市、大月市、笛吹市、上野原市、早川町、身延町、南部町、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町
R4	19	10	8,481	3,789	↓ 40%	甲府市、富士吉田市、都留市、大月市、南アルプス市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市、早川町、身延町、南部町、富士川町、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町
R5	23	7	5,645	2,276	↓ 60%	甲府市、富士吉田市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市、市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町、道志村、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町
R6	25	8	7,444	3,326	↑ 146%	県内全域 (森林のない昭和町を除く) ※西桂町はR5～新たな発生なし

- 令和 6 年度は、小菅村、丹波山村で新たに確認され、被害市町村は全県に拡大した一方、県全体の被害量は 3,326m³ となり、ピーク時の約 35% まで減少。

市町村	材積/m ³				市町村	材積/m ³			
	県	民	国	計		県	民	国	計
甲府市	85	163	78	326	富士吉田市	27	87	14	128
韮崎市		55		55	都留市	19	40		59
南アルプス市	1	24		25	大月市	216			216
北杜市	82	4		86	上野原市	57	71		128
甲斐市	21	2		23	道志村		592		592
中央市		18		18	忍野村		69		69
山梨市		36		36	山中湖村	339	200		539
笛吹市	12	112		124	鳴沢村	52	10		62
甲州市	261	339		600	富士河口湖町	13	127		141
市川三郷町		2		2	小菅村		19		19
早川町		3		3	丹波山村		40		40
身延町	6	21		27	R6合計	1,191	2,035	100	3,326
南部町			7	7	R5合計	596	1,620	60	2,276
富士川町		2		2	増減率 (倍)	2.0	1.3	1.7	1.5

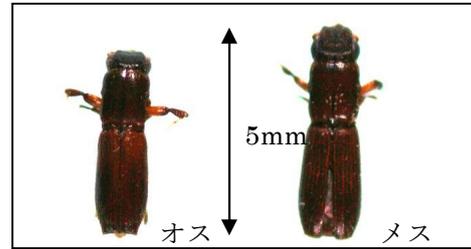
※各項目の単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計は必ずしも一致しない。

ナラ枯れ被害について（参考）

- 「カシノナガキクイムシ」がナラ類やシイ・カシ類の幹に侵入して、病原菌であるナラ菌を持ち込み、樹木を枯死させる現象（ブナ科樹木萎凋病）。
- ナラ菌に感染しても枯損するものは2～5割であり、地域の森林を絶滅させるような被害が発生するものではないが、一度被害が発生するとその周辺へ拡大する。

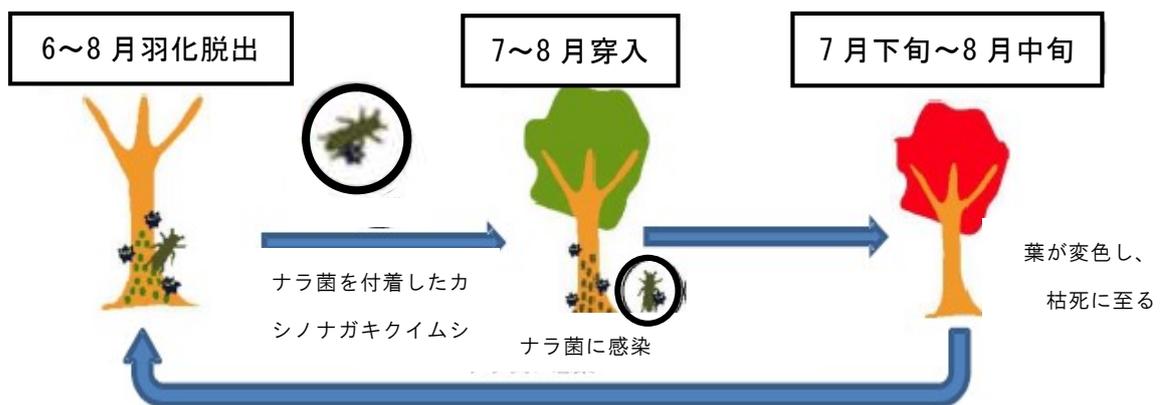


【葉が赤褐色になって枯死した被害木】



【カシノナガキクイムシ】

ナラ枯れのメカニズム



- カシノナガキクイムシの羽化・脱出が始まる時期（翌春の5～6月末）までに、伐倒くん蒸等による被害木の処理が必要。

ナラ枯れ被害の対策

伐倒くん蒸処理



被害木を伐倒、集積し、全体をシートで被覆密閉して薬剤でくん蒸する方法

立木くん蒸処理



被害木を伐倒せず、立木のまま樹幹に注入孔を開けて薬剤を注入する方法

粘着シート設置



シートの粘着面を被害木の樹幹に向けて貼り付け、内部の虫が羽化脱出する際に捕殺する方法

破碎処理



被害木を破碎処理（チップ化）し、幼虫を物理的に殺虫する方法